

2014年(平成26年)11月1日発行

発行者:大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部:大阪府東大阪市中小阪1-5-20 tel06-6729-9485 fax06-6729-9457 (編集責任者:広報部萱間)

変化の多い年。JOFIの役割と資格の意味について再確認しておきます。

来田 仁成 (大阪府釣りインストラクター連絡機構代表)

振りかえると多事多難な一年でした。大西風、集中豪雨、秋になって連続してやってきた台風と全国の様々な場所で災害のニュースが相次ぎました。

幸いなことに、大阪湾はさほどな被害を受けることなく、最後にやってきた直撃台風も、大阪市内にいますと、風が強まってきたなと思ってニュースを見ていると、岸和田に上陸したとのことで張り合い抜けした記憶を持っておられると思います。

その余波のお蔭か、10月末に夢洲で開かれた(公財)日本釣振興会大阪支部のファミリー釣り大会の当日の表水温は22℃、水深5mの底潮は23℃、溶存酸素値は9.5mg/lと絶好の条件になりました。上潮よりも底潮の温度のほうが高いのは、この時期北寄りの風が吹くと、夢洲の南側には淀川の比重の軽い水が流れ込むため、当然と言えばその通りなのですが、急速に水温が下がったことで、大阪湾名物のイワシや小アジは沖に遠ざかり、エサの小魚のいないせいで、タチウオさえ釣果が「まばら」といった状態になりました。

しかし、素早い動きが出来ずに、波止回りをうろつく小魚としてはかなり強い部類のインダイの稚魚のサンバソウは、エサになるイガいの剥落時期が短く、回復が早かったせいか、結構大きく育って元気です。マダコの場合は、産卵時期が二度に別れたせいか、数が多いものの、やや沖に遠ざかり、11月後半から12月にかけて再び波止際にもどるまで、しばらくあおずけの状態です。

さて、JOFI大阪の活動の拠点であった「大阪南港魚つり園」が釣りをしてもかまわない「魚つり園護岸」に変わったことに併せて管理体制が変わり、同時に魚つり園の管理棟が老朽化のため閉鎖されたことで、残念なことに退去を迫られ、明け渡すことになってしまいました。釣り場も大西風の被害のため、現在北寄りの高場一部が使えるのみで修理の期日の目途もつかない状態にあります。

しかし、引き続き5月以後も巡回釣り指導は継続して頂いていますが、手続き上は、港湾施設の使用願い書を提出して、市にお願いして、指導行為をさせて頂いている状態です。誠に遺憾な事態ではありますが「法に従う」のがわたしたち「公認釣り指導員」の本分であり、且つまた、市民の目線からみて、法が正しくなければ、それを正すべく「手順を踏んで主張していく」のもわたしたち(一社)全日本釣り団体協議会の役割でもあります。どうかご理解いただいてこれからもご協力のほど、お願いします。

昨年後半から水産庁の助成事業として「水産多面的機能発揮対策事業」としてスタートした「漁村文化学習会」「稚魚放流」「アマモ場保全」「漂着物処理」などの事業も、「地元の漁師さんと釣り人が同じテーマで協力し、親しく話し合う(都市と漁村の交流)」という最終目標に向けて多大の成果をあげてきました。これもまた、JOFI会員のみなさんの協力のたまもので、全国でも珍しい釣り人が積極的な立場で関与できるケースとして注目されています。

会員の皆様の中には、まだ、このイベントとJOFIの関係がよくわからないかたがおられるようなので、簡単に説明しておきます。

平成25年度からスタートしたこの事業は、各都道府県において行政、漁協、研究機関、NPO法人等が協力して「都道府県別の協議会(大阪の場合は大阪府豊かな海づくり協議会)」を立ち上げ、方針を決めた上で予算申請をして交付されるものです。

NPO法人釣り文化協会はこの制度がつくられた時に、早速手をあげて大阪府を通じて立候補しました。その結果、活動の概要が認められ、前記の大阪府豊かな海づくり協議会が開催されました。

そして、NPO法人釣り文化協会の代表としてこの「協議会」のメンバーに就任した結果として、この事業をNPO名義で直接受注できなくなり、事業実行団体として「豊かな大阪湾をつくる会」という形式で事業を受託することになりました。ちょうど大阪南港の魚つり園を受託するためあってNPO法人釣り文化協会を法人として届け出たのと同じケースと考えて下さい。したがって、事実上はJOFI大阪=NPO法人釣り文化協会=豊かな大阪湾をつくる会という図式であるわけです。

この点、別の組織であるように思っておられるかたがあるので、この機会に、JOFI組織内部の共通理解事項として、あえてとりまとめました。

今後さまざまな問題で釣り人が行政と接触し、意見調整を行っていかねばならないことも多々でてくると思われますが、わたしたちみなさまに提案していきたい姿勢として、「まず私利私欲なく他人や社会のために働く、その上で主張すべきことを主張し理解を求めていく」JOFIの資格はそのためのものでもあると考えています。どうか一層のご理解、ご協力をお願いします。

南港魚つり園は「魚つり園護岸」に変わりました (H26-4~)

平成 26 年 4 月 1 日から、大阪市では予算削減の為に南港魚つり園の管理をやめることになりましたが、跡地については「魚つり園護岸」という名称で、いわゆる「立ち入り禁止をしない堤防」として市民に開放されています。施設課から緑地を管理する課に係が移ったことで、今までのようなメンテナンスが望めないところもありま

すが、私たち JOFI 大阪と釣り文化協会では今まで通り、日曜日に釣りの初心者釣り教室（巡回指導）を行ない、またゴールデンウィークなどには、釣り大会や魚拓教室も実施しています。釣りをする市民の目で水辺環境を見守り続けることが重要だと考えています。

第 10 回ほっとたらあかんやん大阪湾フォーラム (H26-3/2)

3 月 2 日、長居の大阪市立自然史博物館にて、大阪湾見守りネット主催「第 10 回大阪湾フォーラム」が開催され、10 年目のシンポジウムに参加するとともに JOFI 大阪及び釣り文化協会の活動展示を行ないました。この 10 年の活動は市民グループとして「奇跡の連携」と評されますが、釣り人団体としても多くの方と係った事は大きな財産となっています。フォーラムでは次の 10 年に向けての活動の方向が話し合われました。



第 7 回 大阪湾生き物一斉調査／結果発表会 (H26-6/14、9/23)

6 月 14 日、堺 2 区生物共生型護岸実験施設にて「大阪湾生き物一斉調査」を実施しました。今回も釣り文化協会と自然環境保全協会の共催で行ないました。この場所では 5 年目の調査になります。

生き物採取調査は、13 時より 16 時まで実施。私たち釣りのメンバーはそれよりも 6 時間早く集まり、7 時半から 11 時まで釣りによる調査を行いました。シラサエビのエサで、ハネとキビレが釣れました。

また、午前中に来ていただいた参加者を交えて「水質調査」を行いました。水温：表層 23℃、底 21.5℃。塩分濃度：表層 15‰、底 25‰。溶存酸素：底 6.5mg/l...といったデータでした。

午後からの調査では、海岸生物研究会の大谷道夫先生から、生き物採取のポイント、採取した生き物の同定、説明などをお聞きしました。魚類ではカレイの稚魚、ハゼなどはありましたが、シラスウナギなど珍し

いものは今年は見つかりませんでした。調査時期や天候によることもあります。

今年度のお大阪湾生き物一斉調査は、5 月 31 日を中心にして前後の期間、大阪湾全体で 20 団体、22 カ所、1244 名の参加がありました。年々自然観察への関心が高まっているようです。

調査の結果発表は、9 月 23 日、大阪市立自然史博物館講堂にて「第 7 回生き物一斉調査結果発表会」として開催。今回のテーマ生物「巻き貝」についての興味深いお話もあり、大阪湾各地での生物層の違いや、自然環境の大きな移り変わり、生物指標についての知識など、多くの事を学ぶ機会となりました。また今年は結果発表会の前に堺 2 区の生物共生型護岸の見学会が行なわれました。



第18回 JOFI 大阪定時総会 (H26-3/30)

第18回定時総会を3月30日、大阪南港魚釣り園事務所で開催しました。来田代表の挨拶で、南港魚釣り園事務所の閉鎖が4月1日と決定したに伴う業務減少と今後の対応について話がありました。議事では平成25年度の活動状況や経費の使用方法などに質問があり、本年度がよりよい活動ができるよう全員で活発に討議を行い、全員一致で賛同して議事を終了しました。(報告：事務局 物部)



新緑の中で虹鱒釣り<みらい・のぞみ園春の釣り教室> (H26-5/18)

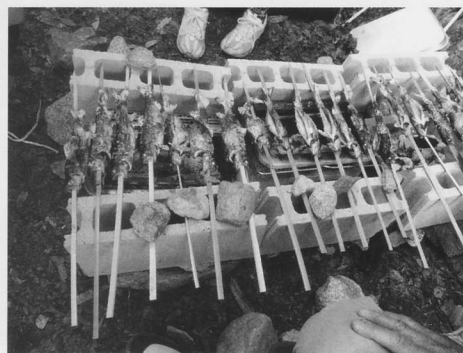
5月18日、恒例の大阪市立弘済みらい・のぞみ園の春の釣り教室を千早川ニジマス釣り場にて行いました。

朝9時ごろ子供たちが到着。顔なじみの子が飛びついてくる。初めての子供もいる。挨拶のあと、千早村の事やニジマス釣りについての話など、約1時間のおもしろい座学です。その後各自釣竿を手に釣り場へ。魚を放流してもらい、実釣にはいりました。心配をよそに、直後より入れ食い爆釣モード！ あっちこっちで「釣れた！」

でインストラクターも大忙し。昼前には90匹くらい釣りあげていました。昼食時には竹串にて焼き上げたマスにかぶりつき、子供たちも満足な様子。はらわたを取り出す時に、「いたいやろな」「かわいそう」という子もありましたが、命を頂くという事も体験して初めて分かるのだろーと思います。昼から2回目を放流し、60~70匹釣れたところで実釣終了。釣り具等の後片付けを済ませ、代表児童よりお礼のあいさつをもらいました。

今回で11回目の釣り教室を終えて、子供たちの成長をたくましく感じました。「先生今日は川の掃除しなくていいのですか？」と聞いてくる子もいました。初夏の空に薫風が吹いた様に感じたのは私だけではなかったと思います。

(報告：大阪東部支部 近藤)



石川大清掃 (H26-3/3) / 石川サイクリング & フィッシング (H26-4/27)

3月2日、富田林市の石川を美しくする市民運動協議会が主催する「石川大清掃」に支部で参加しました。当日は天気もよく、約1時間の清掃後、日頃会えない JOFI 大阪のメンバーとの情報交換の場ともなりました。

4月27日、ボーイスカウト富田林第2団のカブスカウト隊は、石川河川敷サイクルoadを10km走行し、石川の高橋付近にてハエ釣りを楽しもうという計画を実施。私たち釣りインストラクターは、ハエ釣りの指導を担当しました。釣りを通して子供たちに自然の一握りのことを教えようと思い、精一杯がんばりましたが、自然とは厳しいもので坊主となってしまいまし

た。私たちは申し訳ない気持ちでしたが、子供たちの釣りをする熱心な姿に驚きました。

(報告：堺南河内支部 清水)



寝屋川市ふれあい釣り教室 (H26-9/27)

今年も「寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室」の協力依頼があり、9月27日、インストラクター12名で応援しました。参加者総数は51名。

現地の淡輪漁港には昼前に到着して、日陰で昼食をとった後、「すきすきハンドブック」を活用して釣りの基本的な事項、自分を海から守る安全のためにすることなどを説明します。特にライフジャケット着用の正しい着用方法、危険な魚ハオコゼなども実際の魚を見てもらいました。

釣りの前に清掃作業行ない、仕掛けをセットして、釣りを開始しましたが、アジやイワシは釣れず、ハオコゼ、スズメダイなどが釣れるだけでした。夕方5時を過ぎ少し暗くなってきましたが、時たまアジが掛かる程度で、思ったように釣れません。6時に終了の時間を30分延長しましたが



やっぱり駄目でした。子供達に魚が釣れる喜びと体感してもらうことができてなくて残念でした。

反省と再考することは、事前に釣れる時間を調査する必要があるのか、大切な子供たちを預かっていることで、安全を第一に考えなくてはいけないなどがあります。(報告：物部)

ボーイスカウト釣り章講習考査会 (H26-9/28)

9月28日、「日本ボーイスカウト大阪連盟なにわ地区釣り章講習考査会」行ないました。会場は岬町立淡輪公民館。受講者は24名。

講習では「道具にたよらない魚の獲り方」「アウトドアで魚の調理の仕方」「魚の手を使ったさばき方」など独自の内容もあり、私たちもそれぞれに勉強させてもらいました。

15時から淡輪漁港で実釣試験があり、魚種にかかわらず1匹の魚を釣り上げることが、「釣り章」合格の条件になっています。竿や仕掛けをセットし、ライフジャケットを着用し釣りを開始しましたが、前日も不調でしたが、この日も同様なかなか釣ることができません。夕方にやっとアジやイワシがボツボツ釣れ出し、声が上がりました。釣り場の交代などを繰り返し、全員が魚を釣り上げることができたとスカウト長から話があ

り、私たちもほっとしました。釣り場清掃を行ない、閉会式で「釣り章」と「釣り検定初級講習修了書」を全員に渡し終了しました。(報告：物部)



秋風を受けてイワシ釣り <みらい・のぞみ園秋の釣り教室> (H26-10/12)

10月12日、秋の大阪市立弘済みらい・のぞみ園釣り教室を泉大津キララタウンで実施しました。この場所は最近人気のスポットなので、深夜から場所取りを兼ねてサビキ釣りを行ない、朝方にアジを20~30匹確保しました。

9時頃に園の子供たちが到着、挨拶の後、インストラクターよりの注意点を説明して準備しておいた竿を渡して2名の子供たちに1人のインストラクターが付いて釣りをしました。日が上がってから何処も釣れていなくて心配しましたが、程なくイワシが回って来て、あちこちで喚声が上がりました。

私は今回来ている児童の中で最年少らしい低学年の子を受け持ちました。はじめは魚がまだこの場所に回って来ず、釣れないね！と言っていましたが、少ししてイワシが回って来て1匹めが。やったーと大喜び。当初は、魚を触るのも怖がっていたのですが、自分で針から魚を外せるようになり夢中で釣っていました。

いつの間にか昼になり、インストラクターの2人が釣れた魚を唐揚げにしてくれていたのが、美味しそうに食べていました。昼からはあまり釣れなかったですが、十分に楽しんでいる様子で良かったと思いました。(報告：房野)



報告10

「第1回 釣り」と漁村文化フォーラム」を岸和田で開催 (H26-3/9)

3月9日、岸和田市立浪切ホールにて「釣り」と漁村文化フォーラム」を開催しました。漁師さんと釣り人が共に行動するということは今までは考えられなかったことですが、平成25年度からの水産庁事業、水産多面的機能発揮対策のお陰で実現できました。歴史的に見ても画期的なシンポジウムだったと思います。100名の会場でしたが、130名と満席。参加者は漁業者、釣り人だけでなく、一般の府民の方、行政関係の方も多数お見えになりました。

フォーラムはいたって和やかな雰囲気での始まり、大阪湾の名産品をいただきながら、その美味しさに感動するとともに、漁師さんの仕事、大阪湾の現状について勉強することができました。開催地の岸和田市さんから、泉州の名産品をもっと支援したいというお話があり、また漁師さんからは、「マナーはまずはあいさつから。朝起きて誰でもおはようというように、漁港で人に会うたら声かけて。」という釣り人への呼びかけもありました。大阪湾を愛し、大阪湾を良くしたいと思っている方々は、老若男女仕事地域にかかわらずた

くさんいらっしゃるのだということがわかり、大阪湾への希望が膨らみました。フォーラムの詳細内容は協議会ホームページに出ていますのでご覧下さい。(http://osaka-yutakanaumi.org)



報告11

「阪南市の自然海岸清掃活動」(H26-3/16)

3月23日、水産多面的機能発揮事業として「阪南市の自然海岸の清掃活動」を漁師さんと釣り人の協力で実施しました。実施場所は尾崎、西鳥取、箱作の3カ所で、各地域に貴重な自然海岸が残されています。海からの漂着ゴミは常に打ち上げられており、ゴミ拾いも日常のように続けられていますが、このようなイベントを行なう事で市民の関心を集めることが重要です。何もしないと汚いのが当

たり前になってしまうからです。清掃活動については53ピックアップをはじめ長年続けておりますが、今後も釣り人の参加を『呼びかけて行きたいと思っています。今回3カ所での参加者数は計122人。たくさんのご参加をいただきありがとうございました。』



報告12

平成26年度 水産多面的機能発揮事業 開始! (H26-7)

豊かな大阪湾をつくる会では、地域協議会の採択決定(5月13日)を受けて、今年度の水産多面的事業を正式に実施する事が決まり、事業を紹介するポスターを作りました。イメージ写真は3月に実施した漂着物回収の1コマです。

構成団体の各漁協、阪南市、阪南市観光協会、岸和田市、大型釣具店などに配布し、このポスターの上に案内チラシを貼付けて展示してもらっています。コピーには、「大阪湾を昔のような魚がいっぱい釣れる美しく心休まる豊かな海に戻したい。」と書いてあります。



報告13

マコガレイ稚魚放流と学習会 (H26-6/22)

今年度の水産多面的機能発揮対策の第一弾として、6月22日、阪南市の下荘・西鳥取・尾崎の各漁港でマコガレイの稚魚 1 万尾を放流しました。一般参加者の放流体験は尾崎で実施。雨模様でしたが、お子さん連れのご家族も参加されました。放流体験の後、カレイについて学習会を行ないました。森政次さん（大阪府漁業振興基金栽培事業場長）から生態と資源管理のお話。佐藤保さん（尾崎漁業組合長）からは尾崎では昔は足で踏むほどいたというお話。田中正視さん（大阪湾見守りネット代表）からも泉南の自然についてのお話を伺うことができ、楽しい稚魚放流と学習会となりました。



報告14

キジハタ稚魚放流と学習会 (H26-10/19)

続けて大阪湾への稚魚放流を報告します。10月19日、水産多面的事業の種苗法流第2回目「キジハタ稚魚放流と学習会」を実施しました。放流の為に購入した魚は 1 万尾、6 月に購入し、放流効果が出るサイズまである程度育ててから放流をします。

放流船（漁船）は 10 時すぎに西鳥取漁港を出港。尾崎の沖のから下荘の沖まで、魚礁や堤防の近くに放流しました。

堤防からの放流数は 500 尾。放流体験には小さなお子さんも参加してくれました。学習会では栽培事業場の森さんから、配布資料とパネルを使ってキジハタのことを教わりました。キジハタは飼育が大変難しい魚だそうです。放流後の成長は早いのですが、産卵活動が可能になる 28cm 以上になるには 3 年かかるそうです。そして、漁業者間では 28cm 以下は再放流というルールがあり、釣り人にもお願いしています（守って下さいね!）。

放流用の滑り台から体長 10cm ほどのキジハタをみんなで海に放ちます。海に入るやいなや、影になっている堤防のヘチヘ一目散に、元気に潜っていきました。大阪湾の将来に少し楽しみが増えた一日になりました。



報告15

西鳥取のタコ漁とタコ釣り文化学習会 (H26-7/27)

7月27日、西鳥取漁港にて漁村文化学習会の第1回目「西鳥取・タコ漁とタコ釣り文化学習会」を行ないました。参加者 30 名、講師 8 名、協力漁船 6 隻 12 名。

タコの釣り方の講習から、実際に漁船に乗ってもらってタコ漁まで体験してもらい、タコ漁やタコの知識についても学習会を開催しました。西鳥取の長老（前組合長の名倉さん）から聞くタコ漁のおもしろい話、釣り文化協会・来田からはタコ釣りについての漁業権やルール・マナーなども解説させてもらいました。

学習会の仕上げは地元産「泉ダコ」の試食です。漁師さんが焼いてくれたたこ焼きはホンモノでしたね！ どんな有名店でも勝てません。大阪のタコ文化はすごいです。



下荘箱作ビーチの地引き網と夏の魚学習会 (H26-8-24)

8月24日、第2回目の漁村文化学習会「箱作ビーチの地引き網と夏の魚学習会」を実施しました。一般参加40名、講師スタッフ12名、漁協6名。

せんなん里海公園は、釣りが禁止されていない海浜公園です。この機会を見逃す手はないと、朝の2時間、釣りインストラクターが釣り方を見せ、アドバイスをおこないました。キスにクサフグ、タコ、チャリコにエソ。小アジや木っ端グレにガッチョまで、バラエティー豊かな泉南の魚たちに出会えました。

9時半頃から本日のメインである地引き網体験がスタート。予想以上に網が重く、漁師さんから「がんばれ！」と笑顔の発破。そして、

網に入ったたくさんの魚を目の前に、子どもたちは大興奮。タコを手づかみする子も結構いました。バーベキューで「魚そのものの味」を食べ比べてもらい、そのあと、下荘の釣り場と漁業についての学習会を行いました。漁獲は昔に比べて相当少なくなり、今では獲るだけではなく、『増やす漁業』を考えているとのこと。地引き網については、本来は江戸の頃から戦前まで続いた伝統的な漁法だったそうです。

里海公園は30年前にできた人工の砂浜ですが、漁師さんと地域住民が様々な形でかわり合い、自然の回復を見守り続けているという事も教えてもらいました。



尾崎の底引き網漁と底に住む魚の学習会 (H26-9/21)

9月21日、尾崎にて「底引き網漁と底に住む魚の学習会」を実施しました。今回で3回目男漁村文化学習会ですが、最後の締めは、大阪湾を代表する漁法の一つである「底引き網」の見学です。一般参加38名、スタッフ15名、漁協8名。

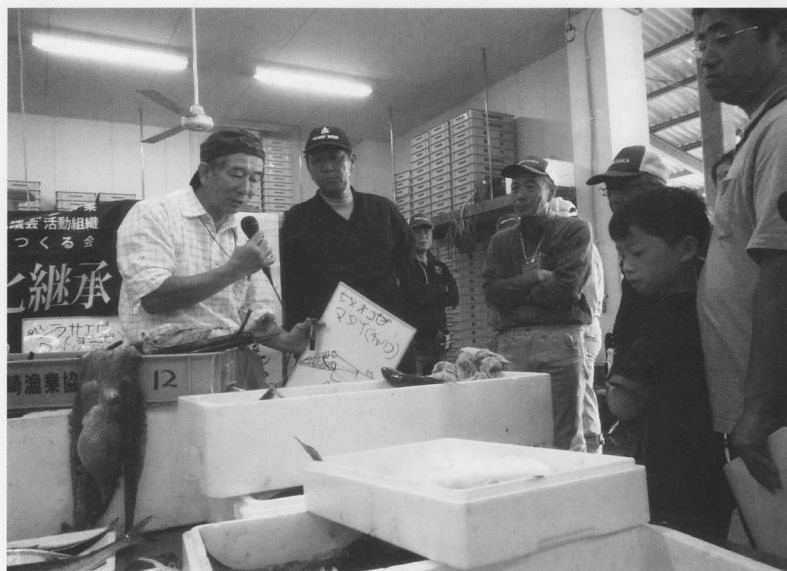
見学船は2班に分かれて出て行きますが、待っている班の方に、特別講師の鍋島先生が漁港をガイドして下さいました。漁師さんの生活の知恵、漁業の方法、魚の話、漁船の話まで、深くて面白いお話が尽きることなく続く、なんとも贅沢で楽しい時間でした。

10時頃に、底引き網漁見学船の第2便が帰ってきて、尾崎の魚市場の方へ移動し、今日獲れた魚を材料に魚の学習会を行ないました。サワラ、サバフグ、アカシタ、各種海老、タコ、コウイカ、タチウオ、



マルアジ、サバ、カマス、マダイ、チダイ、クロダイ、イシダイ、メイタガレイ、マナガツオ、カワハギ…とメモただけで36種類の魚がありました。鍋島先生の解説がまた楽しくて、テーブルにかぶりつきで熱心に聞き入れられ、子どもたちは手を伸ばして魚に触れていました。

ジャコ（サルエビ）は組合長がさっと茹でて下さって試食しましたが、大変に美味でした。大阪湾のほんとうの豊かさを体中で感じることでできた、貴重な一日でした。



お知らせ

「第2回 釣り漁村フォーラム」参加受付中
11月3日（祝）岸和田市立浪切ホールにて開催します。

11月3日（祝）
岸和田浪切ホール

大阪湾の幸

＜出席者＞
尾崎漁協（大阪のハマ）
西島取漁協（大阪のタコ）
下荘漁協（大阪のエビ）
春木漁協（大阪のシラス）

＜発表者＞
釣り文化協会 JOFI大阪
大阪湾見守りネット ほか

参加費無料
開催日：平成26年11月3日（祝）11時半～15時
場所：岸和田市立浪切ホール 4階交流ホール
定員：100名（事前お申込ください）
申込先：豊かな大阪湾をつくる会 ▶MAIL:jimukyoku@turibunka.or.jp
お問合せ：090-1907-2833

釣り人と漁師さん
食べながらシンポジウム
しましょ！

第2回 釣り漁村フォーラム

大阪湾はほんのちのちの豊かさを
近海漁業の発展と持続可能な漁業の発展を
「96年漁業政策」を推進する「大阪湾の幸」をテーマに開催します。

水産多面的機能発揮活動組織「豊かな大阪湾をつくる会」
構成団体：下荘漁業協同組合、西島取漁業協同組合、尾崎漁業協同組合、大阪湾見守りネット、NPO法人釣り文化協会、
大阪府約イノストラクター連絡機構、湾岸シーバスソサエティ、南大阪湾を愛する釣り人の会
協力：大阪府、岸和田市、阪南市、泉南市、大阪府漁業協同組合連合会、大阪府立環境農林水産総合研究所、公益財団法人大阪府漁業振興基金、
NPO法人大阪府海域美化安全協会、泉南市観光協会、泉南市観光協会、イデバンエイトグループ、品洋社 関西の釣り、株式会社テレビ岸和田

「阪南の自然海岸清掃活動」参加者募集！

11月16日、8時より尾崎漁港、西島取漁港、下荘漁港3カ所
集合にて、自然海岸の清掃（漂着物回収処理）を行います。
3カ所同じ時間に同時に実施しますので、参加される方はお好
きな場所にお集まり下さい。参加記念品も用意しております。なお、電車で行かれ
る場合は、南海難波駅朝7時10分発の特急サザンに乗りいただければ、8時の集合
に間に合います。

11月16日（日）
阪南の自然海岸清掃活動

大阪湾に漂っている自然海岸は生き物の育つ場所としてとても重要です。
漂着物を回収して、美しい砂浜を守りましょう！

参加者募集中！

漁師さんと一緒に漂着ゴミを拾って、美しい砂浜を守りましょう！

参加費無料（参加者全員にウミガメバッジほか記念品進呈！）
開催日：平成26年11月16日（日）各地区に8時集合！
場所：第1地区 尾崎海岸（尾崎港集合）
第2地区 西島取海岸（西島取港集合）
第3地区 箱作海岸（下荘漁港集合）
※申込の必要はありません。当日8時にお集まり下さい。
雨天の場合は翌週11/23開催
集合場所までの交通図は裏面をご覧ください。

水産多面的機能発揮活動組織「豊かな大阪湾をつくる会」
構成団体：下荘漁業協同組合、西島取漁業協同組合、尾崎漁業協同組合、大阪湾見守りネット、NPO法人釣り文化協会、
大阪府約イノストラクター連絡機構、湾岸シーバスソサエティ、南大阪湾を愛する釣り人の会
協力：大阪府、岸和田市、阪南市、泉南市、大阪府漁業協同組合連合会、NPO法人大阪府海域美化安全協会、公益財団法人大阪府漁業振興基金、
大阪府立環境農林水産総合研究所、泉南市観光協会、泉南市観光協会、イデバンエイトグループ、品洋社 関西の釣り、株式会社テレビ岸和田

キレイにしたら
うみがめだって
やって来る！

KIREINA
KAIGAN WO
MAMOTTE NE!

11月16日「漂着物回収処理」会場案内

【尾崎港】
電車の場合＝南海本線・尾崎駅下車、徒歩5～6分。
海の方へ歩き、堤防沿いに北に進むと漁港に着く。
車の場合＝国道26号線「鳥取東」交差点を西へ曲がり、
セブンイレブンの踏切を越えて、空地駐車場に入る。
その空地の端から堤防沿いの道に入り、北へ約400m。
※他の道は狭いのでご注意ください。

【西島取漁港】
電車の場合＝南海本線・鳥取ノ荘駅下車、徒歩5分。
海の方へ歩いて行けば漁港に出ます。
車の場合＝国道26号線「鳥取東」交差点を西へ曲がり、
西に曲がり、直進。海岸線まで出て
左折すれば漁港に入る。

【下荘漁港】
電車の場合＝南海本線・箱作駅下車、徒歩5分。
車の場合＝国道26号線「箱作中」
交差点を西へ曲がり、直進。海岸線まで出て
左折すれば漁港に入る。

＜参加者へお願い＞
車で来られる方は受付で駐車場場所を確認してから駐車して下さい。
8時～8時20分までに受付を済ませて下さい。お名前などご記入下さい。
8時30分から漁師さんの指示で清掃活動を行います。
作業は約1時間、9時30分に再び集合して、ゴミを分別し、記念撮影をします。
10時解散予定です。

持ち物ですが、軍手、ゴミ袋などは用意しています。水辺の清掃なので長靴があると便利です。
なお、作業のあとに残って漁港で釣りをされても結構です。

南海電車時刻表（休日用）

区間	区間急行	特急サザン
難波	06:54	07:10
新今宮	06:56	07:12
天下茶屋	06:58	07:14
堺	07:04	07:20
羽衣	07:09	レ
泉大津	07:13	レ
春木	07:17	レ
岸和田	07:23	07:33
貝塚	07:26	レ
泉佐野	07:30	07:40
尾崎	07:51	07:49
鳥取ノ荘	07:53	レ
箱作	07:55	レ

みんなで楽しく、海岸清掃をしましょう！

多数のご参加をお待ちしています！